

入居企業紹介 その67

SIC-2 604

アドバンスドメディカル株式会社

SICに入居されている企業をご紹介します。



【代表プロフィール】

アドバンスドメディカル株式会社
代表取締役 彌永秋彦 氏
昭和32年、福岡県久留米市に生まれる
趣味は、抽象画や真空管アンプの収集

【起業しようと思ったきっかけは？】

九州から上京し武蔵工業大学機械工学科卒業後、大手医療・計測機器メーカー研究所に就職。米国スタンフォード大学医学部心臓血管研究所や国内大学研究室などでの共同研究を進め、電子血圧計、心電計などの医療機器の開発に没頭する日々を送る。

開発当時の裏話の一つ。無線機能を確認するために、鉄板で覆われている自動車をあえて避け、リヤカーに測定装置を積み込み、部下に引かせながら研究所からの無線電波の送受信測定の陣頭指揮に立った。真夏の太陽の下、大汗を掻きながらリヤカーを引く彌永氏ら一行は、研究所で相当話題になったようだ。

その後、自ら医療関係開発の事業を行うことを志し、1996年八王子の富士森公園近くのマンション一角で起業。その後、津久井町青野原を経て、2000年9月SICに入居した。



世界最小のパルスオキシメーター
(血中酸素飽和度測定器)



SICで会社経営を
支えている 長坂常務

【事業紹介】

自社製品であるパルスオキシメーター(血中酸素飽和度測定器)のほか、大手企業の医療機器開発業務を受託。

最近では、介護高齢者福祉施設でのベッドからの転倒・転落事故を未然に防ぐための“見守りセンサ”の開発が完了し、このほど2010年2月発売に至った。

夜間の介護施設では、看護師が多数常駐する医療施設に比較して、極少数のケアワーカーにより運営されているために転倒・転落事故の発見が遅れる傾向にあるという。介護施設での課題を解決する、研究開発に5年を要した渾身の製品である。



※ケアワーカーの負担を軽減し、利用者それぞれに合わせたケアを行う事により、転倒・転落のリスクを回避し、ケアの質の向上に役立つ。

【一番苦労していることは？】

工場勤務の経験が無いために生産技術の管理とイレギュラーな事態への対応について苦慮している。

【これからの夢または目標は？】

将来自分がお世話になるだろう介護関係の環境を良くしたい。少しでもプライベートな空間・時間が確保できるような環境づくりを目指して、肉体的・精神的・経済的に負担の少ない医療機器の開発を進めていきたい。

最近のデジタルアンプから出る音が綺麗過ぎて飽きてしまうとあって、真空管アンプをこよなく愛する。会社では最先端のデジタル開発を行う一方、自宅ではビンテージアナログ環境で寛ぐ彌永氏は、研究少年のような笑顔で語ってくれた。



同社 上野原工場にて

アドバンスドメディカル株式会社
SIC-2 604号室
TEL 042-770-9613 FAX 042-770-9614



「ニュービジネスリーダー」育成セミナー

SIC 経営塾 塾生募集

「時代に打ち勝つ『経営力』が求められている」

激変の時代にあっては、景気の波に左右されない、時代に打ち勝つ経営力こそが、企業の成長の鍵となります。

SIC では、いよいよ、2010 年『SIC 経営塾』塾生の募集を開始いたします。(HP は、近日アップ予定)

- 開催期間 平成22年6月～平成23年2月(全11回)
- ◆募集人員 15名
- 対象 経営者または経営幹部
- ◆受講料 178,500円(消費税、一泊二日の合宿費を含む)
- お問い合わせ: SIC-2 中村(内線2004)

アンケート調査にご協力いただき、
ありがとうございました。

結果につきましては、後日、皆様にお知らせいたします。また、いつでも SIC スタッフにお声掛け頂ければ幸いです。



桜の雪化粧です。



静御前のお墓



— 22年1月24日(日) 杉戸宿～古河宿 —

東武動物公園駅に7:41到着。早速歩き始める。杉戸宿の本陣は明治初年に消失し、表門だけがやや傾き寂しげに建っている。少し進むと幸手城主の一色宮内大輔義直が亡妻のために永禄3年建立した宝生寺がある。江戸時代は寺子屋が、明治時代には杉戸学校があったそうだ。街道の左右には重厚な屋敷の渡辺家や町屋があって、歴史を感じさせる。ほどなく杉戸宿を出て5kmほど国道4号を進むと旧道がでてくるが、やがて道は丁字路の追分となり、左に行くと日光御成街道、右が日光街道となる。このあたりから6番目の宿場である幸手宿に入る。駅前商店街のなかに問屋場跡碑や一里塚跡の案内板が見られ、聖福寺・正福寺を巡る。道は4号線と合流し、桜の名所の権現堂堤となり、当日は水仙祭りが開催されていた。

行幸橋を渡り、当時の道標などが残る旧道を歩くと嬉しくなる。さらに1時間半ほどで東北新幹線のガードを降り、川通神社・会津見送り稲荷神社を過ぎると栗橋宿に入る。「関所破り」の処刑者を供養したと伝えられる焙烙地藏がある。街道沿いには浄心寺・顕正寺の立派な寺が並び宿場がかなり繁栄していたことを偲ばせる。ふと気が付くと電柱の2.5M位の高さに赤いビニールテープが巻いてありその下には、昭和22年のカスリーン台風で利根川が決壊し、その時に浸水した水位を示すものだそうで自然の猛威に驚かされる。

栗橋駅近くには、義経の後を追ってこままで来たが病死したと伝えられている静御前が祀られている小公園がある。12時半になったので昼食を摂り13時出発。栗橋は東海道の箱根と並ぶ重要な関所で「房川渡中田関所」と呼ばれた。利根川の土手には関所址碑が残されている。利根川橋の中間が埼玉と茨城の県境になり、渡り終えると古河市に入っていく。すぐに中田宿の案内板があり当時は河川敷に69軒の店屋があり、宿場としての業務は栗橋宿と交代であたる、いわゆる合宿の形態をとっていたことが書かれていた。鶴ヶ峰八幡神社や静御前が帰依したという光了寺そして円光寺と続いている。

宇都宮線と平行して歩道が整備され、平成6年に植えられた茶屋新田の若い松並木が続く。300年の樹齢の松は、道路拡幅や戦時中に松根油を採るために伐採されたそうで戦争の傷跡ともいえる。市内に入り古河第二高校の校庭隅に古河一里塚がありフェンス越しに写真を撮る。時間が無くなり15:17発の湘南ライナーに飛び乗って帰宅しました。道中距離は23kmでした。 つづく

2010年3月

【今月の経営スケジュール(3月期決算の会社参考)】

経理: 2月源泉税・地方税納付、給与計算・試算表作成
 税務: 役員等所得税確定申告、事業年度内諸届

日	月	火	水	木	金	土
31	1 会議室5月分 予約受付開始	2	3 FC EXPO2010	4 FC EXPO2010	5 FC EXPO2010	6
7 SIC-2 エレベーター点検	8 *SIC-1 エレベーター点検	9 SIC-1 フィルター清掃	10 南西 フォーラム SIC-2 ガラス清掃 自動ドア点検	11	12	13 SIC-1 床面定期清掃 カーペット清掃
14	15	16	17	18 SIC-2 フィルター清掃	19	20
21 春分の日	22 振替休日	23	24 SIC-2 消防設備点検	25 SIC-2 空気環境測定	26	27
28	29	30	31	1 会議室6月分 予約受付開始	2	3

* エレベーター点検 SIC-1 10:00~11:00の間はご利用になれません。お問い合わせは 生井(内線1116)まで



青山学院大学

理工学部電気電子工学科
准教授 外林 秀之氏

当研究室では、普段は目立たないところで私たちの毎日の生活を支えている「光」に関する研究をしています。「光」はあらゆるものの中で最も速く伝搬し、その速さは秒速30万kmで1秒間に地球を7回半も回るほどの超高速性を有しています。このため、光通信・光情報処理や光応用計測・レーザ加工など、幅広く産業に応用がなされています。当研究室では、大きく分けると「光」の情報通信応用と「光」のセンシング・計測応用を目的に研究に取り組んでいます。

まず情報通信応用ですが、光通信やフォトニックネットワークのさらなる高速化・大容量化・高機能化を目指しています。近年では光通信は家庭でも利用されるようになり、身近となっていますが、インターネットなどの情報通信利用が急増し、ネットワーク容量の限界を越えてしまうエクサフラッドの状態が予想されはじめています。従来の光ファイバ通信では、C帯(波長1530~1565nm)とL帯(1565~1625nm)が利用されてきましたが、通信容量を飛躍的に拡充するための周波数資源の開拓を行っています。

具体的には、量子ドット半導体による高性能レーザや波長帯域が数百nmにわたる超広帯域光の生成、新たな光ファイバ伝送路であるフォトニック結晶ファイバによる伝送システム実証などを行っています。また、光-電子融合技術としてのシリコンフォトリソグラフィにも取り組み、複数の研究機関と共同で、超微小かつ超高速な光デバイスの研究開発を行っています。

もうひとつの柱である光センシング・計測応用では、まず広帯域波長可変中赤外光源の開発を行っています。中赤外領域では、様々な化学物質やガスに物質固有の吸収スペクトルが現れるため、例えば環境計測装置などへの応用を想定しています。

2009年度は、光学機器メーカーと共同で、約100nmの波長可変性を有する3 μ m帯のコンパクトかつ高出力光源を作製しました。(写真参照)また、当研究室ではテラヘルツ波の発生や計測応用の研究にも着手しています。光と電波の間には、これまで利用が困難であり未開拓領域とみなされていたテラヘルツ波が存在します。テラヘルツ波は様々な物質を透過すると共に物質固有の反応を示し、人体にも安全であるため、安心・安全な社会実現のための新しい非破壊・非接触の計測技術としての活用が可能です。一例としては、文化財(特に古典絵画や建造物)にはほとんどの作品に修復の歴史があります。文化財がどの材料で創られているかを分析することは、劣化を最小限に抑える事や正しい修復を行う上で、極めて重要な作業です。当研究室では、テラヘルツ波を用いた文化財の非破壊計測を行い、文化的側面で技術的貢献ができないかと考えております。

「光」の持つ属性を極限まで活用する超高速光量子エレクトロニクスの研究開発により、情報通信やセンシングへの応用を通じて、社会へ貢献していきたいと考えています。



【お問い合わせ先】

共同研究について：

青山学院大学 研究支援ユニット課長 杉野 郡二 ☎042-759-6056
<http://www.aoyama.ac.jp/college/ssi/index.html>

理工学部・研究科について：

青山学院大学 学生支援ユニット 学務グループ
理工学部・研究科担当 ☎042-759-6033
<http://www.aoyama.ac.jp/graduate/science/index.html>
<http://www.cseis.aoyama.ac.jp/>

ご案内



日 時：平成22年3月10日(水) 18:00-21:00
会 場：サン・エールさがみはら
定 員：100名(先着順)

お問い合わせ：中村(内線2004)・稲垣(内線2003)まで

戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)の概要について

関東経済産業局 産業部 製造産業課
ものづくり基盤技術専門官

小池 冬記 氏

経済産業省では「戦略的基盤技術高度化支援事業」について、平成22年度予算案として、本年度の約3倍である150億円を計上しているところです。本制度は、鑄造・切削・プレス・メッキ等、国で指定する基盤技術20分野を活用して研究開発を行う企業等に活用可能です。

国の研究開発助成制度(サポイン)を活用して

(株)サイバックコーポレーション 代表取締役社長 平林 巧造氏

同社では、燃料電池の主要部品「セパレータ」について、生産コストの低減や超寿命化に対応する「メッキ・プレス形成の一貫生産技術の開発」のため、川下企業を含む3社及び県工業技術センターとでコンソーシアムを構成し、平成18年度「戦略的基盤技術高度化支援事業」の採択を受け研究開発を実施。国の助成制度活用の経緯や、その成果等を紹介します。

JSTにおける研究開発助成制度について

(独)科学技術振興機構 産学連携展開部 主査 岡田 晋輔 氏

研究成果最適展開支援事業(A-STEP)は大学等の研究成果の実用化に向け、幅広い研究開発フェーズを対象に、研究開発費・期間が異なる複数のタイプの支援制度を揃えております。大学等の技術シーズを活用して研究開発を行う企業・大学等に活用可能です。

研究開発助成制度の申請におけるポイント

(社)首都圏産業活性化協会(TAMA産業活性化協会)

研究開発担当 松本 浩造 氏

TAMA産業活性化協会では、毎年多数の地域企業の研究開発案件について、国等の提案公募型事業への申請サポートを行っています。同協会の研究開発担当として、多数のブラッシュアップ実績を有する松本氏より補助金申請書作成のポイント等の申請の「コツ」について解説します。

【シリーズ企画 企業支援の現場から・・・メンター編】

「地域発ベンチャー企業の役割」

新事業創出における、地域発ベンチャー企業^{注1)}の役割について少し考えてみたい。そして、その意義を見つめることで、事業活性化へのヒントになれば幸いである。

これまで、バブル崩壊後の経済再生を掲げ、国を挙げての重要な課題のひとつとして新産業・新事業創出が叫ばれてきた。この課題に対して、ベンチャー企業が大きな役割と期待を担ってきたことは言うまでもない。第3次ベンチャーブームと言われ、地域発ベンチャーに対する公的な政策牽引の起業支援体制も、ここ10年を掛けて、かなり充実され環境は整ってきた。さがみはら産業創造センターは、その中でもVCを持つ大きな位置づけである。BI^{注2)}として機能し、入居企業と一体となって新事業創生を推し進めている。しかしながら、現下の経済環境・産業構造変化の中で、改革の実態は厳しい状況にあり、新たなイノベーションの方策を見出す必要があるとも言える。

ベンチャーの一翼である大学発ベンチャーについて言えば、近年、大学も積極的に創業を支援する政策に転換しており、大学内外の起業環境の整備・醸成などで、その数では1996年を起点とすると11倍強となった。しかし、日本では、産業界と大学の目指す方向性が異なる点が依然として議論にある。即ち、企業は技術開発を通じて先進性や秘匿性を獲得し、利潤を生み出すことを基本姿勢とするが、大学は、公共性・公開性を基本とする研究の、社会への敷衍(フエン)や未来への便益を目指す向きがある。米国の産学連携の環境に比べ産業界との結びつきが弱く事業化への成功例も多くはない。現状では、日本経済・地域経済を再生するエンジンとはなり得ていない。

こういった状況下で、産業界を熟知し、得意分野の産業技術力を有する地域発ベンチャーの役割に期待がある。大学発シーズと産業界ニーズのデスパレー^{注3)}を埋める存在として大きな役割が考えられる。

これまででは、地域発ベンチャー企業の動きは、起業家等が自ら培ってきた技術を基軸に新事業を進めるスタイルが一般的である。今後

の新事業を生み出す選択の一つとして、また、地域発ベンチャーの役割として、大学シーズと産業界ニーズをつなぐブリッジ役が考えられる。

また、地域発ベンチャーが大手企業に埋もれた知財や技術を掘り起こし、自社の技術との融合を果たすことによって、新事業を創生する方策がある。これらは、埋もれる知の事業化に向けて、産業界を熟知し組織機動力を有する地域ベンチャー企業が、力を発揮する道である。米国でも、大学シーズと産業界ニーズをつなぐ有効なブリッジ役として、また、大手企業に埋もれた技術の事業化の発掘者として、地域発ベンチャーが産業の振興に大きく関わり始めている事が最近言われている。

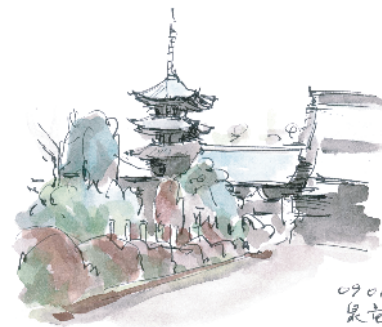
2010年も早2ヶ月が経過し、時の速さを痛感させられる。そして、この時期は何時も「一年の計」への反省と想いを新たにす。毛利元就は「一年の計は努力にあり」とも言っている。一日々、精一杯の努力を重ねて新事業の成就をしたいものである。

注1) 地域発ベンチャー：ここでは大学発ベンチャーを除くベンチャー企業群と定義

注2) BI (Business Incubator または Business Incubation)：企業孵化、事業創生と育成

注3) デスパレー：産業界のニーズに繋がらず埋もれた大学や大学発ベンチャーの知財・技術の谷。大手企業の埋もれた知財や技術(大きな投資で開発したが製品化できなかった)の谷

株式会社産創コラボレーション 代表取締役
SICメンター 小林 守



090118
泉七寺
上鶴岡・竜泉寺三重塔
SICアドバイザー
権藤 徹志氏 画

チャレンジショップを担当の「飯山のいい店み〜つけた!」と「山本のめし屋レポート」を隔月で掲載しています。

山本のめし屋レポート

宇都宮に行ってきました。
宇都宮といえば餃子。
地元の知人に宇都宮の餃子が食べたいと言ったら「宇都宮みんみん」に案内されました。
宇都宮餃子の元祖のような店で、店構えもメニューもシンプルで庶民的。
店員さん達は全員がお揃いの白いうわっぱり。
メニューも焼餃子、水餃子、揚げ餃子、ライス、ビールだけ。
今回注文したのは焼餃子、水餃子、ビール。
餃子はともに六個で240円と安い。そして美味い。
特に水餃子は今まで食べた水餃子の中で一番美味かった。
宇都宮に行ったら一度立ち寄ってみてください。
ただし、いつも混んでいます。



餃子の像と山本



焼餃子

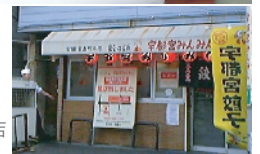
水餃子



みんみんのメニュー

餃子

「宇都宮みんみん」本店



■住所 栃木県の宇都宮に10店舗ほどあります。 ■Web サイト <http://www.minmin.co.jp/>

編集後記

また、学生や社会人、日本中大移動の季節がやってまいります。企業においては、日本や世界のどこかへ転勤ということもあります。その家族と言えば、「暖かい沖縄なんていいな〜、おいしい北海道なんかいいな〜」などなど、旦那は元気で留守がいいとばかりに、心配よりも遊びの算段?! 不安に思われるよりも、元気に遊ぶことを考えてくれたほうが(但し安く)、安心かも知れませんね!? 荻島